

異世界を塗り替えな イカ

PIGRO ナマケモノ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

この物語はとある世界の大迷宮に謎のイカ魔物「インクリング」として転生した四人のゲーマー学生達のお話である

—————

スプラトゥーンとモンハンを同時進行してた時に思いついた作品です

モンハンのようなモンスターを、スプラトゥーンの操作や武器で狩れたら面白いかな
と思い、ストレス発散も兼ねて書いてみました

ほんの少しでも皆様に楽しんで頂けたら幸いです。

目次

異世界に転生してみなイカ	1
能力を把握してみなイカ	10
初戦闘してみなイカ	15

異世界に転生してみなイカ

今のは3時半を少し過ぎたころ

さつき 授業の終わりを告げるチャイムが鳴ったところだ

「さーて、今日もバイト頑張りますか」

俺は伸びをしなから 意気揚々と帰る準備をする

「ハル…中学生のセリフじゃ無いよそれ、先生が聞いたら勘違いするぞ」

隣には帰る準備をすませた アキ<豊田秋吾・トヨタシユウゴ>が俺の発言に訂正を
いれる

「…ん、金イクラを集めるバイト 間違ってる」

ほら見ろ、フユ <沢城舞冬・サワシロ マフユ>もそう言ってるじゃ無いか、あつ
てる あつてる

「何時に集合〜？くまさんのバイトまでみんなでナワバリとかする？」

ほら、ナツ <岩崎夏希・イワサキ ナツキ>もバイトって言ってる、あつてる あつ
てる

「はあ、じゃあもうバイトでいいよ、それより今度のスプラトゥーンの大会 皆予定大

丈夫か？」

「勿論だ アキ」

「…あたりまえ」

「バッチしだよー」

俺、＜春野輝明・ハルノ テルアキ＞はさっきのアキ、フユ、ナツ の幼馴染み3人とでチーム四季 を結成して一緒にゲームをしている、最近しているゲームはもっぱら「スプラトゥーン」だ、これでもこのチーム四季、なかなか強くネットで開かれる大会にいろいろ出場しては結構な成績を納めている

今日も通学路をいつも通り並んで帰り、そしていつも通りそれぞれの家に着き皆 switch を機動していただろう

そう、いつも 通りなら…

並んで帰っていたところに ブレーキが一ミリも踏まれていない大型トラックが突っ込んだせいでその いつも は一生くることは無かった

—————

「やツベー、自分の身体ながらグロいなー」

トラックでペチャンコになった自分の体を見ての感想がそれだった、ゲームによるグロ耐性のお陰かそれとも現実としての実感がわかないのか分からないが自分で言うのも何だが凄い落ちつきようだ

「でっ フユ、どうだ？」

「…無理っぽい」

「ナツもか？」

「1度出ちゃったらダメっぽいね、せつかく救おうとしてくれたのにごめんね」

ハル、アキ

「…ごめん」

いやいや、救えなかった俺らに謝られても…

トラック激突時に俺とアキは反射的にナツとフユを押し出しトラックの直撃を防いだ。だが、このように四人とも幽霊？みたいな状態になっている、直撃を避けた二人の身体は比較的綺麗な為、戻れるかどうか試したが頭などを強く打ったり出血のせいで駄目なようだ…俺とアキ？ モザイク必須の状態だよ

…

さて、これから俺らはどうなのかね、オレンジ髪の死神が来て尸魂界（ソウル・ソサエティ）とかに連れてかれるのかな？

こんな幽霊の状態、作り話の中だけだと思っただけだと思つたし、そのせいで死んだ実感がまるで無い、皆もそうなのかこれからどうするの？つて感じになつてゐる…いや、四人だから落ちて着いてんのかな独りぼつちで幽霊とか心細すぎるし…

「うーん」

俺が悩んでる所に皆の視線が集中する、いや 期待されてもこんな状況で良い案なんて出ないぞ…

「ハル…足の所に…」

綺麗にハモる皆、目線を足に向ける…

くあwせdrftgyふじこip!!アイエエエエ！ 触手!? 触手ナンデ!?

それはぬるぬるに絡み付く何本もの触手、なにもない地面から生え俺を地面に引きずり込もうとしてるようだ、

女騎士でも無い俺に絡んで誰得だよ、つーか何で俺気付かなかつたし

身体を覆われ地面に引きずり込まれる時に最後に見たものは、他の3人の足下にも触手が出現したという光景だった

—————

「すまんすまん　ワシが悪かったのく泣かんでおくれ、悪気は無かったんじゃ、でも考えたらいきなり地面から触手生えるのは怖いのくいやー本当すまん」

謝りまくる謎の老人、今の状況を説明しよう

触手に捕らわれたあと俺を含めた四人は何もない白い空間へと連れてこられた、そこにつく際にナツが全力で大泣き、フユもかなり怯えている状況だ

その白い空間の主？　かな白い髭がイカの触手のようになってる老人がそんな二人を見てあわあわしている、悪気は無かったって言うてるけどかなりの恐怖だったぞ　あれ
：

俺が二人を慰めている間にアキは何か事情を知ってそうな老人に話しを聞くことにしたようだ

「悪気は無かったとして話しを進めます、この四人が置かれている状況を説明していただきたいです」

おーおー、アキ怒ってるなー　一応言葉を丁寧にポーカーフェイス気取ってるが付き合いが長いからわかる

「うーん、ちょうど良いタイミングで欲しかった魂が4つもあつたので拐った…あら？　ワシ悪者みたいじゃ…」

四人のジト目が謎の老人を襲う

「怒らんでくれ、どのみち死神が魂を回収しに来て記憶とか綺麗に消され別の命として転生するんじゃないから ほら むしろラッキーじゃろ」

「ラッキーかどうかは これからの僕達の今後にもよると思います」
 そらそーだ、その魂を悪魔の餌にしますとかだつたら最悪だしな…

「ほら あれじゃ 地球の物語によくあるじゃろ異世界転生ものじゃ、ざっくり言うとワシが神様みたいな感じで君らに能力を与えて記憶持ったまま転生みたいな感じじゃ」

「神様 みたい と言うことは神様じゃ無いんですね…」

「ざっくりで良いじゃろうが…一応神様じゃ、司るものは烏賊のみ…低級神じゃわいの」

「…と言うことは私達が生まれ変わるのもイカ…」

「いやああああー」

なだめてた女性陣がショックを受ける…俺もショックだ 勇者様で俺ツエーがしたい
 い

「待て待て、そこでお主らの魂を使う意味があるんじゃないよ、「スプラトウーン」と言うゲームを知つとるじゃろう、お主らたしか大会に出とつたではないか」

「はい…全大会は3位でした…」

「そうそれじゃ、そのスキルが欲しかった」

「……だから僕達を殺したと……」

「ちがうわい、それが出来るなら一位の奴ら狙つとるわい、殺すなんて事出来んから待つかないし、ワシが出来る事など魂を拐うくらいじゃ、何より元々スプラトウーンやっただ事のあるそれなりの腕の持った魂だったら誰でも良かったんじや」

「でっ、なんでスプラトウーン？」

「そのイカの老人が犯人かどうか確かめる方法が無いため、俺は話しを進める為に質問する」

「そうじゃのう……説明の為にはまずお主らが行く世界の説明からした方が良いでしょう……」

始まった長話、要点をかいつまむと

・ 世界の名前は「マニヤム」：神様語で奪い合う世界だそうだ

・ ここでは神様の眷属達（魔物や人）が生活して、神力を奪い合っているらしい

・ 神力、と言うのは自分の神様（俺らならこの烏賊老人？）から誕生時に与えられてるもので死ぬと倒した者の力が移るらしい

・ 神力はそのまま神様の力で、眷属が力を回収する際に一部の力が神様に行くらしい

要約

ワシ 中位神になりたいから「マニヤム」で敵を倒しまくって欲しい！

「……そこでスプラトゥーンじゃ!!」

やつと俺の質問の答えが返ってきた長話だったな

「この世界にイカの強い反応を感じ来てみたら 強きイカ達が切磋琢磨して腕を磨きあつとるではないか、残念ながらゲームの中であつたがこれをベースにワシの眷属を造つたら強い魔物が出来る……いや出来たんじゃ……」

あーなるほどだから俺らの魂か

「だが 駄目じゃった、ゲーム内では縦横無尽に動いとつた影も無くただただ走り適当にインクをばらまくだけのイカにしかならんかった……じゃからワシの神力 全て使つてお主らの魂を確保したんじゃ」

鳥賊の老人が土下座しだす

「どうか頼む、「インクリング」となってマニヤムで戦つてくれ」

頼まれてる様な状況だが実質俺らには決定権はない、戻る身体も無ければ この神様にほつとかれると死神が来て記憶消されて別人になるらしい……

他の3人も状況はわかつてるようで俺に目線で合図を送る……

「わかりました…前に進むしか無いじゃないですか…」

転生は一週間後とのこと…インクリングへの身体になれるのや心の整理期間だそう
だ…

まー前に進むって決めたし、悲しいのも本音だがやるしかない
さあ、やるとなったら四人の全力で

異世界を俺達色に染めてやる

異世界を塗り替えなイカ!!

能力を把握してみないか

「よしツと まーこんなもんだろ、皆はどうだ？」

「…おk」

「バッチしだよ」

「思ったよりは動けてるよ」

それぞれこの白い空間でチュートリアル的な事をしている、インクリングの中に入られれ動作確認中だ、

俺達はあの世界にユニーク個体してポップするらしい、普通の個体は人間のように雄牝の個体が増えていくらしい、誕生時の神力の節約になるし 数は武器だからだ

逆にユニーク個体は一から神様が造る為コストがかなり高いらしい、増えないから力を溜め込みその分強いらしいが増えないので殺られたら終わり

「ワシの持つとる神力 「インクリング」にほとんどつき込んだ、あの世界初参戦のワシが中途半端な増える烏賊の魔物にしても他の神の餌になりそうじゃからの…一世一代の博打じゃ」

とか言ってた：俺らが終わったら烏賊神様も神力無くしてほぼ終わり：負ける気無
いけどギャンブラー過ぎると思う、ルーレットの一点賭けみたいなもんだろ：

さて、そんな烏賊神様が造ったインクリングの能力を紹介していこう

・基本はスプラトゥーンのゲーム通り、メイン武器を撃つ サブを投げる インクを
潜って泳ぐ ・スペシャルは敵を倒してしかゲージが溜まらないけど撃てる 、ほ
とんどゲームと変わらない でも一人称視点になれないと駄目だな

・そして俺達四人インクリングは死んでもリスボンする、そう このリスボン地
点が俺らの本体「マザー」だ 、これを破壊されたら本当に死んじやう感じ：タワーディ
フェンスみたいにするのも重要になって来そうだ、烏賊神様言うには神力取り込むと頑
丈になってくらしいし移動も出来るようになるとか 頑張ろう

・今 全員の武器がワカバシューターだが神力を回収すると「G」に変換されて武器
の購入や自分達を強化出来るギアが手に入るらしい：今思ったがこの単位ゴールド
じゃ無くて烏賊繋がりでゲソだったりするのだろうか？

・最後にインクについての説明だ、実際に魔物がいないので試せないが インクを相
手のHP分(防御無視)ぶっかけると一気にぱあんと弾けるらしい ついでに最強種
の竜でもHPは 99999 がmaxらしい 96ガロン約1923発だね：、あ
と床や壁に塗ったインクは相手の魔力を纏った攻撃や魔法をくらくとインクが蒸発し

て何も塗ってない状態に戻るし 二日で自然に蒸発するので足場には注意が必要だ

とざっくりこんな所か、俺はもともとシューター武器を基本に使うからしばらく「ワカバシューター」で良いとして、ナツとフユが使いにくそうだな…アキ？あいつは状況に合わせて何でも器用に使うからほつといてよし

「そろそろマニヤムにスポーンする、どうやら大迷宮内のようなじゃ、頼んだぞ」

リスポーン地点…「マザー」が強く光出す

そうして俺達はマニヤムに転生する、烏賊神様の考えた最強の魔物「インクリング」となつて

—————

↳ 大迷宮魔物図鑑 56版より一部抜粋

「インクリング」

・この魔物はどうやら本来イカの形態のようだ、子供のようなヒト形態にも変身

することができると。

・ ヒト形態の際には様々なブキの様なモノを持ち毒液を飛ばし、イカ形態の際には自分の毒液を泳ぐ様に動く。

・ 自分を出す毒液を床や壁に塗りつけ自分の縄張りを広げる習性がある。

・ 4匹一組ので行動しているように魔物を見事なチームワークで狩っている所を目撃されている

・ それぞれの個体に魔物の特徴であるコアが無く、何処かに「インクリング」の母体と言えるようなものがあると推測される。

ー 蜂の巣自体が魔物である「ビースファイア」同系列の可能性がある
ー その他 新種個体 又特殊個体の為情報提供をお待ちしています

ー

【名前】 春野昌明 ・ ハル

<得意武器>

シューター、マニキュバ

サブの使い方が上手い、塗り武器が好きで実はガチよりナワバリのほうが得意だったりする

【名前】 岩崎夏希 ・ ナツ

<得意武器>

ローラー

待ち伏せの奇襲から　ダイナモバシヤバシヤまで色んなローラーを使いこなすパワフル女子

【名前】豊田秋吾

・　アキ

<得意武器>

バケツ、ブラスター、スピナーetc.

なんでも器用に使いこなすオールマイティー　悪く言うと器用貧乏、気遣い上手で皆　得意武器があるからと状況に合わせて色んな武器を使う

【名前】沢城舞冬

・　フユ

<得意武器>

チャージャー

ポーカーフェイスで敵を撃ち抜くクールビューティーな女の子、エイムの鬼

初戦闘してみなイカ

ババババババ…

やっぱり初心者向けのワカバシユーターの塗り性能はなかなかですなー、世の中には整地厨と言われる人種がいるらしいが気持ちは少し解る、俺もこのインクを綺麗に塗っていく作業は癒しに近いものを感じる

「うーん、やっぱ ローラーでこうコロコロって塗りたいね」

「…無い物ねだり、私もチャージャーがいい」

「二人とも マザーを狙って魔物が寄ってくるらしいからハルを見習ってほら足場確保」

「…あれは塗り中毒の変態 真似できない」

「いやいや、変態じゃないぞ！塗っていると落ち着くだけだ」

「それにフユもヘッドシヨット中毒じゃないか…」

「…ヘッドシヨットは快感」

「ほら、ハル フユ喋ってないで塗るとこいっぱいあるぞ」

「うーっす」

今皆でマザー周辺にインクを塗っていき自陣を確保している所だ、運動場のような広い空間をただひたすら塗っていく

この巨大な洞窟内（迷宮？）にスポーンしてから一時間、まだ魔物に出会っていない、マザーの関係上、遠出、出来ない俺達は、少しリスキーだが少し魔物を誘き寄せる事にした

さて、ここでひとつ説明をしよう、魔物達は本能的に神力の高いもの狙って集まる習性がある、それを逆手にとったのがマザーの機能その①だ、神力をわざと遠くまで解るようにして魔物達を誘き寄せる、つまり返り討ち作戦だ、ON OFF が出来るので今はONの状態にしてある

初めは戦いやすい敵でありますようにっつと

—————

おっふ いきなり群れで来やがった：

洞窟の暗闇から出てきたのは狼のような魔物、角ついているのがイカにも魔物っぽい

1
2
3
…
13匹

群れで出てくるとクマさんのバイトサーモンランを思い出すなツと

結構なスピードで迫り来る一角狼…そろそろインク塗ったテリトリー内に侵入してくる…まー初めは様子見でつと

コロコロつてね

サブ武器のスプラッシュボムを転がす

カランコロンと音を立てスプラッシュボムは狙い通り一角狼の足もとに転がり

キュイーン パアン

弾け飛ぶインクの直撃をくらった一角狼はそのまま膨らみ破裂インクをばらまく…

HP180以下でしたか余裕だね

他のメンバーも初手ボム投げて様子見ている、ワカバシューターの射程短いからね

パアン パアン弾ける敵 残る数は8

狼達の角が光出す…なんか来るな

インクに潜り勢いよく後退、まずは敵の観察が大事だよなーまあ置きボムしときます

けど

角から放たれる一撃は風の刃 インクを蒸発させながら俺に迫る

ははは 遅い遅いー

そのレベルの一撃を俺が避けられぬわけないだろうが見てからの回避で余裕だ、そ

してその狼の足元で俺の置きボムがばあんする

キュピン!!

後は蒸発したインクの部分に気を付けつつインク内から他の一角狼に一気に接近

ババババババ

敵の懐に入り至近距離で1発27ダメージのインクが多段ヒットして一気に狼を溶

かす

ガウウ

その溶けた一角狼の近くにいたもう一匹が俺に牙を向け襲いかかる

ほいつ キュピン!!

丸い球体が俺を包む、初代スプラトウーンのワカバシューターのスペシャル ウエポ

ン「バリア」だ 一瞬ノックバックくらうも直ぐにエイム合わせて はいOK

バリア維持したまま近くの狼もバイバイと

バリアが切れた頃には辺りは戦闘前のように静かになっていた

「…歯ごたえがない」

「もうちよと多くても良かったね、サーモンランに比べると数が少ないから余裕だつ

たよ」

「はいはい、初戦闘なんだから欲張らない、一旦マザーの敵寄せOFFにするよ」

そういったアキはマザーの中にトポンツと入る、俺らは神力の回収かな？ 一角狼の弾けた位置にイクラのような塊がある、それを拾いマザーへ運ぶ…気分はサーモンランのバイトだ

「じゃあ、俺見張つとくから ナツとフユはマザーで休んできたら？」

「…ん、中もつと詳しく見てくる、よろしく」

「詳しく見てくるよーお願いね ハル」

トポンツと音を立て二人はマザーの中に入っていく、見た目はゲーム スプラトウーンのスタート地点にある丸い奴、中に入るとちよつと良いとこのマンションの一室みたいな空間が広がっている、これがマザーの機能 その②だ

リビングにキッチン、お風呂トイレ別 それぞれの個室となかなかの設備だ今はモデルルームみたいに寂しい感じだが神力、つまり「G」で家具家電などが買えるらしい…もつと魔物狩らねば

ついでに食料とか生活に必要なものも「G」を使って購入する、選んだ食材がリビングにあるの小窓から出てくる、牛乳パックひとつ15G

だった 1G≒10円くらいかな

「ハル、イクラぽいの全部回収した」

「おう、で何 G 貯まった？」

「678Gだ、1匹 約50Gくらいかな」

「おーまずまずだな、アキ まずは二人の武器購入が目標で良いか？」

「そうだね、生活費とマザーの防御強化代を確保して 残りはまずローラーとチャージャーの武器を買ってあげようか」

マザーの防御強化は俺達の生命線なので稼いだGの半額はマザーの強化注ぎ込む事を四人一致ですでに決定している

今マザーの能力が

HP 500 ・ 防御力10だ

HPは30Gで1上昇、防御力は1000Gで1上昇だ結構コストがデカイ

防御力と言うのは俺達の武器には無意味だが結構大事である、例えば敵がワカバシューター持ち（防御無視無し）なら1発27ダメージを 1発17ダメージに減らせる 最大HPも大事だし「G」はいくらあっても足りないものだ

「まー頑張るしかないんだよねー」

「だな、試しに敵を誘き寄せたが弱い奴だけが来るとも限らない…結局の所 ギャンブルみたいなもんだな…」

安全を確保するために強くないといけない…強くなるにはリスクを負わないと

いけない… 難しいな…

「でも 理不尽にトラックが突っ込んで来るより対処の方法がある分今の方がましだって、また戦闘配置について誘き寄せるか？」

「だな、ハル見張りよろしく、二人呼んでくるわ」

さてっと そうだ、狼の攻撃でインク蒸発した所塗り直ししてこないとな、そしてG貯めて 二人の武器を購入だな使用武器使うだけで動きが違うもんな、頑張ろう

—————

アキのメモ帳

一日目

・ 魔物

一角狼 角より風魔法のようなものを放つ、スプラッシュボム1発で倒せる為H

Pは180以下と思われる

※魔物にレベルの概念があるならHPなど増える可能性あり注意

1匹 約50G 個体によりばらつきある為レベルの概念がやはりあるかも

しれない

爪長ウサギ 二回目の誘き寄せで出てきた大型犬サイズのウサギの魔物、今の所に魔法を纏わせた近接攻撃のみ おこなってくるが まだ10匹弱しか遭遇してない為 要観察

1匹約30G

でつかい蜘蛛 これも大型犬サイズの蜘蛛 魔力を纏った糸を放出してくる、糸の拳動はスプラ2のパラシエルターに近い感じ、壁を移動するために注意が必要

※フユが虫 苦手のため早急に遠距離武器購入する

1匹約45G

白い蝙蝠 見えない超音波は俺らにダメージは無いようだがインクが広範囲で蒸発する、攻撃方法は近接のみだが動き早く音波で把握しているのか位置取りも上手い

1匹約80G

今日の稼ぎ 2192G

出費・マザー強化

防御力10 ↓ 11

HP 500 ↓ 503

1090G

食費、冷凍ピザ、ジュース等購入

— 173 G

残高 929 G